

目指す学校像	大宮南中のよき伝統を継承しつつ、変化と前進を続ける学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 基礎・基本の向上を目指した授業の工夫・改善 2 きめ細かな指導をとおした心豊かな生徒の育成と多様な教育的ニーズを踏まえた教育の推進及び安全・安心で心潤う教育環境づくり 3 保護者・地域との連携・協力の推進 4 自ら学び、保護者・地域に信頼される教職員の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和6年2月15日	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに良好な結果であった。 ○市の学習状況調査において、学習に対する興味・関心に関する質問の結果は概ね良好だが、特定の学年・教科で市の平均を下回っている。 ○総合的な学習の時間では、生徒は積極的に探究的な学びに取り組んでいる。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の「書くこと」が比較的苦手な生徒が見られる。 ○学びに向かう力、人間性等を高めるため、日常生活との関わりを意識し、各教科の本質に触れる活動場を設定する必要がある。 ○ICTを活用し、個別最適な学びを実現することに課題がある。	・学ぶ楽しさを実感し、思考力・表現力等を高める授業の実施 ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善	①全国学力・学習状況調査の結果を基に、生徒の学習状況を把握し、授業改善に生かす。 ②日常生活に関わる内容を取り上げ、学ぶ楽しさ・喜びを実感できる活動場を設定し、協働で課題解決する学習を展開する。 ③総合的な学習の時間等において、考える活動、話し合う活動、表現する活動(プレゼンテーション等)を、ICTを活用して行う。	①生徒が調査結果をもとに、自分の学習状況を把握し、目標を立て、学力向上に向けて行動できるようになったか。 ②各調査の教科に対する興味・関心の値が市の平均値を上回る結果となったか。 ③市学習状況調査で「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したりまとめたりする学習をすることができたか。	①全国学力・学習状況調査は良好な結果であった。生徒は自主的に学力向上に取り組んだ。 ②全国学力学習状況調査の国、数、英の興味・関心についての回答では、3.0ポイント～11.2ポイント市の平均値を上回った。 ③市学習状況調査(参考値)結果は肯定的な回答は95.2%と活用できており、市平均より高い数値となったが、100%には至らなかった。	B	・学校教育目標「輝く個性 夢きり」を実現するため、「学習者が主体的に学ぶ授業」という視点からの授業改善を進めていく。	○学力向上や意欲の向上は、ICT活用も含め、探究的な学習への取組や先生方の授業の工夫と共に生徒の努力や頑張りの成果とらえる。 ○ICT機器の活用率は、活用が苦手な子どももいると考える。利用率だけでなく、ツールとして活用し、自分なりの学習方法を身に付けることが大切と考える。 ○進路・キャリア教育は、職業・仕事に対するイメージを育てることとともに、経営者と労働者についてそれぞれ学ばせることが大切と考える。	
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」と回答をした生徒は、市平均を上回った。 ○昨年度、感染症対策などにおいて、十分な対策を行い、学級閉鎖の対応をとることはなかった。 (課題) ○生徒の心の不安定な状況や長期欠席が問題となっている。今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切で組織的に支援・相談を進める体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら健康・安全に係る問題について考え、主体的に取り組む力をはぐくむことが課題である。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全点検の確実な実施と健康・安全の実現に主体的に取り組む生徒の育成に向けた取組の充実	①教育相談・特別支援の校内委員会で蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ②スクールロイヤーを講師として招聘し、いじめへの組織的な対応について、教職員研修を実施する。	①学校評価アンケート(教職員)で教育相談のA評価が70%以上となったか。 ②学校評価アンケート(生徒)で教育相談のA評価が65%以上となったか。 ③スクールロイヤーを招聘した研修を実施し、いじめの早期発見、組織的な対応をすることができたか。	①学校評価アンケート(教職員)で教育相談のA評価は44.4%(AB100%)となった。 ②学校評価アンケート(生徒)で教育相談のA評価63.8%(AB95.2%)となった。 ③大宮南小と合同でスクールロイヤーを招聘し、いじめ対応への実践的な研修を実施することができた。	B	・特別支援学級の学習計画の再検討と効果的な交流及び共同学習の実施方法の研究、実施を行う。		
3	(現状) ○本校学校運営協議会では、目指す生徒の姿について熟議を積み重ね、夢や目標をもち、自己効力感の高い生徒を学校・家庭・地域が協働で育てていくことを共有した。 (課題) ○学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、生徒に育てたい力についてさらに熟議し、ポストコロナに向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・目指す生徒の育成に向けた学校・家庭・地域が協働で行う取組の整理と充実 ・目指す生徒の育成に向けた実践を共有するためのICT活用、教育活動公開	①学校運営協議会を年3回実施し、目指す生徒の育成に向けた取組を整理する。 ②整理した計画に基づき、具体的方策を実施し、学校・家庭・地域が協働した取組の成果を検証し、充実を図る。	①学校運営協議会を年3回実施したか。 ②「学校運営協議会の一員として目指す生徒像の共有」の肯定的な回答が90%以上となったか。 ③学校評価アンケート(教職員)で保護者・地域との連携のA評価が60%以上となったか。	①学校運営協議会を年3回実施した。 ②学校運営協議会において目指す生徒像の共有を行い、中学生に係る各団体の取組を整理し、今後の取組について議論を深めた。 ③学校評価アンケート(教職員)で保護者・地域との連携のA評価が33.3%であった。	B	・地域行事への参加やボランティア活動を生徒に積極的に広報し促進する。 ・学校の教育活動に地域等の力を取り入れる具体策を検討する。		
4	(現状) ○学習指導要領の趣旨に即した指導と評価の一体化に向けた各教科の取組を計画的に進めている。 ○ICTの活用について、エバンジェリストを中心に研修を重ね、活用が進められている。 ○各教職員が、ライフステージに応じた研修を意欲的に進めている。 (課題) ○学習評価について、思考・判断・表現の形成的評価の研究を本年度、まとめる必要がある。 ○ICTの活用について、教員間で差が見られる。全教職員が活用を進める指導体制の確立が課題である。	・生徒の思考・判断・表現を高める指導と形成的評価の推進 ・各教職員のライフステージに応じた個別最適な研修の推進	①生徒の思考・判断・表現を高める指導と形成的評価について、指導者を招聘した全体研修、研究授業の実施と全教職員での参観、研究のまとめを行う。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む研修計画を立案し、面談等で適時に進捗を管理し、指導力の向上を図る。 ③全教職員がミライシード、スタディサプリ等を含めた個別最適で協働的な学びの実現を目指したICTの活用を進める。	①講師を招聘した研修、教科横断的な授業公開を年2回実施し、全教員が思考力等の形成的評価を着実に実施しているか。 ②全教員が、計画に即して研修を進め、各自の目標を達成することができたか。 ③全教員がアクティブラーニングの推進を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。	①指導者を招聘した全体研修、研究授業、全教職員での研究協議を実施し、形成的評価の研修を進め、各教科で研究のまとめを行った。 ②初任者、各年次研修、中堅教諭等研修及びその他各自で設定した研修を計画的に進め、立案した目標を達成することができた。 ③全教員がアクティブラーニングの推進を目指し、スタディサプリを含めて日常的にICTを活用するための研修を実施し、授業等で活用する機会が増えた。	B	・各自の研修計画を確認し、キャリアに応じて研修を進めるように指導する。また、研修の進捗状況について確認する機会を定期的に設ける。		